

美術専攻 洋画研究領域

オオノ ナツコ

大野 奈津子



にほんブログ村のおはなし

油彩、カンヴァス、インクジェットプリント、グレー台紙、NTラシヤ、
クロス、マットコート紙

によろんのおはなし

白くニョロニョロとした存在「によろん」と都市・建物を主軸に描いた油絵の連作と、それらをまとめた絵本「によろんのおはなし」から成る作品である。都市を渡り歩く「によろん」は、孤独な野良タヌキ、臆病な鳥人間、自分嫌いなゾウ、空虚な巨人など、人生の葛藤を象徴する生き物たちと出会い、行動を通して彼らの悩みに向き合っていく。「によろん」は作者自身の無垢な心の象徴であり、暗く描かれた都市や建物は不安な社会の象徴である。本作は、によろんと生き物たちの関わりを通して、不安な社会の中でも自分自身と向き合い、他者と手を取り合いながら前に進んでいくことの大切さを描いている。同時に鑑賞者に対しても、自身の抱える不安や葛藤に目を向け、他者とのつながりの中で「社会の中で自分らしく生きる」ことを考えるきっかけとなることを願っている。

本作では、全体の物語性や世界観を伝える媒体として絵本を採用している上で、油絵単体でも作品として成立するように、大きさやクオリティを担保している。また、色や光・影を使い分けることで、温かさと冷たさを表現している。温かさと冷たさは、作者が人と接した時に感じた物理的・感覚的な温もりが元となっている。近年の若者が将来に不安を抱いているという背景から、社会の象徴である都市・建物は寒色や中間色で冷たく暗く描く一方、他者と接して希望を感じる場面では暖色を取り入れて温かく明るく描いている。加えて、物語は未明→朝→昼→夕方→夜→夜明けという時系列で進むが、時間の経過以外に、不安や希望を感じる人生の局面も表現している。

私は大学院での研究において「自分の表現について深め、作風の基盤を築く」ことを目標としていた。研究の集大成である本作では、社会の象徴である「建物」や心の象徴である「キャラクター」、社会や人を巡る感情を映し出す「温かさと冷たさ」「光と影」の表現、不安な社会やそこに生きる人々に迫る「社会と個人の在り様」というテーマ性が見られる。このように「自分の表現」を確立できたことから「作風の基盤を築く」ことができたと言える。

今後も、社会や個人の在り方に焦点を当てつつ、建物やキャラクターを描く作品を制作していきたい。また、同様のテーマを別の表現メディアにも応用したい。